

坂口 治隆先生 ご退職記念祝賀会のご案内

拝啓 厳寒の候、皆様方にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、坂口 治隆先生は平成二十一年三月三十一日をもって、宮崎大学を定年退職されることとなりました。

坂口先生は鹿児島のご出身で、昭和四十二年に東京大学教養学部基礎科学学科を卒業後、同大学理学系研究科に進学されましたが、昭和四十四年に同博士課程を中途退学され、同年七月、京都大学大学院理学研究科・物理第二専攻・助手に奉職されました。昭和五十八年に助教授に昇任され、平成十八年から宮崎大学工学部・材料物理工学科・教授として、量子システム工学講座を担当されました。このように先生は、四十年の長きにわたり原子核物理を軸に研究と教育に携わり、多大な貢献と業績を残されています。

先生は、大阪大学・核物理研究センターを中心に、高エネルギー加速器研究機構、フランス・サクレー研究所やロシア・ペテルブルグ研究所、近年では理化学研究所にも研究の場所を展開され、原子核における偏極現象や高分解能精密核物理の研究の発展に尽力されました。先生の代表的な研究成果として、変形核の四重極モーメント測定による有効相互作用の研究、陽子弾性散乱の系統的測定による光学ポテンシャル及び原子核媒質効果の研究、陽子非弾性散乱の零度測定による中間エネルギースピンの物理の研究が挙げられますが、近年、研究の対象を安定核だけでなく不安定核にまで広げられ、一層幅広い研究を進められています。陽子非弾性散乱の零度測定は非常に困難を伴うものでしたが、先生は世界に先駆けて精密測定を成功させ、さらに同じ手法をアルファ粒子の零度測定にまで応用され、核力や原子核の圧縮率など核物理の重要な課題に取り組む新しい手法を確立されました。教育面においても、坂口先生は、京都大学、宮崎大学において、学部・大学院生の教育を担当され、核物理を中心に多くの分野で活躍する若手研究者を育てられました。ものづくりを常に意識され、実験の現場で学生とともに手を動かしながら核物理の面白さを多くの若手に伝えられ、教育者としても大きな足跡を残されました。

このような先生の長年にわたる数々のご功績とご指導に感謝の意を表するため、別記のようなご退職記念祝賀会を計画いたしました。

皆様にはご多用のこととは存じますが、この趣旨にご賛同賜り、先生と親しく語らう場として祝賀会にご参加いただきますようお願い申し上げます。

平成二十一年一月吉日

坂口 治隆先生 ご退職記念祝賀会世話人一同

前田 幸重

伊藤 正俊

松田 達郎

酒見 泰寛

記

ご退職記念祝賀行事

一、研究会 「広い意味での核反応研究のこれから」

日時 平成二十一年二月二十一日（土）午前一〇時三十分～午後四時三十分
場所 青島サンクマールホテル（宮崎県）・三階会議室

二、記念講演

「私の四十年の研究と核物理への遺言」

● 坂口 治隆 宮崎大学 教授

日時 平成二十一年二月二十一日（土）午後五時～午後六時
場所 青島サンクマールホテル（宮崎県）・三階会議室

三、祝賀会

日時 平成二十一年二月二十一日（土）午後六時三十分～午後九時
場所 青島サンクマールホテル（宮崎県）・一階ラウンジ「オーシャン」
会費 一万円 （記念品代を含みます）

尚、午後六時三十分より写真撮影を行いますので、受付をお済ましの
うえ、祝賀会会場にてお待ちくださいますようお願い申し上げます。

本記念行事にご参加のご都合を、左記の連絡先へ電子メールにて二月一日までにご連絡く
ださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

連絡先 千八八九―二一九二 宮崎市学園木花台西一―

宮崎大学工学部材料物理工学科内

前田 幸重

電子メール reaction09@hadron.miyazaki-u.ac.jp

電話 (〇九八五) 五八―七三六九

ファックス (〇九八五) 五八―七三七六